

地元企業が収穫支援

～援農ボランティア受け入れ～



収穫作業をする地元企業の職員

当JAでは、JAグループ4連が行う農業者支援事業「援農ボランティア」を受け入れています。地元企業職員22人は10月26日、黒石基幹支店と平賀基幹支店管内のりんご生産者の園地で収穫など手伝いました。

参加者は「ボランティアに参加することで農作業の大変さを実感し、生産について知ることができた。機会があればまた参加し、生産者の力になりたい」と話しました。ボランティアを受け入れた生産者は「繁忙期は人手が必要なのでとても助かる。これからも続けてもらえるとありがたい」と話しました。

JA青森中央会農業支援課の阿保潤司課長は「援農を通じて農業を深く理解してもらおうとともに、生産者のお手伝いをすることで少しでも労働力不足の解消につなぎたい」と意気込みました。

北と南の絆を深める

～JA南さつまと人事交流～

鹿児島県のJA南さつまの職員4人が当JAを訪れ、10月28日から5日間にわたって人事交流を行いました。両JAは、平成25年1月に「北と南の交流協定」を締結以降、農産物や特産品を通じての交流や両JAの人事交流を行っています。JA南さつまの職員が当JAを訪れるのは、28年11月以来3回目となります。

平賀地区の長尾智生さんの園地でりんごの収穫体験や営農指導員との同行巡回、各部門と意見交換会などを行い、当JA管内の生産者やJA職員と交流しながら農産物や取り組みなどを学びました。人事交流をしたJA南さつまの職員は「鹿児島では体験できないことを経験した。りんごの収穫作業はとても楽しかった。人事交流を通じて学んだことを、今後の業務に生かしていきたい」と話しました。



JA南さつま職員(左)に収穫作業を教える長尾さん(右)

大きなりんごに興味津々

～体験保育で収穫作業～



りんごを収穫する園児

黒石市の幸成保育園と田舎館村の光田寺保育園は10月29日、同市で「りんご狩り体験保育」を実施しました。りんご栽培と命の大切さを学んでもらおうと、両園の副園長を務める福士幸雄さんの園地で毎年実施しています。春には人工授粉の作業を行い、大きく実ったりんごを両園の年長児20人が収穫しました。

黒石基幹グリーンセンターの佐々木芳彦営農指導係長が講師となり、収穫の仕方やおいしいりんごの見分け方を教えました。

園児は「初めてりんごを収穫した。きれいなりんごが収穫できて楽しかった」と喜びました。福士さんは「体験保育でりんごを学び、健康で元気に育てほしい。大人になったらりんごを育てたいという園児もいるので、将来を期待したい」と話しました。

